

令和6年(2024年)

三原市社会福祉協議会

9月号

# みはらふくしだより



日頃から福祉のまちづくりの活動にご協力いただき、ありがとうございます。この「みはらふくしだより」は、三原市社会福祉協議会各地域センターの情報誌です。皆様の福祉に関する活動の様子やお知らせを掲載しております。

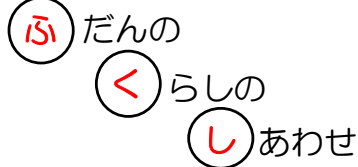
## 久井地域センター 久井小学校4年生の福祉学習の取り組み



久井小学校では毎年4年生が福祉学習に取り組まれています。今年度は「ふくしについて知り、自分たちができそうなことを考える」がテーマです。

6月の学習日。まずは子どもたちへ「ふくし」ってどんなこと?と投げかけてみました。左の写真のように、みんな大正解!よく知っていますね。

まとめると「ふくし」とは・・・



・その幸せが様々な理由で阻害される人がいること  
・誰もが「できること・できないこと」はあり、お互いに支え合いながら生活することで、ふくしに近づくことなどをお話しました。

左の写真は「今後自分たちが何を学びたいか」を考えている様子です。子どもたちは、「障害のある人が普段どんな暮らしをしているか」という事に、特に興味をもっているようでした。

7月の学習日は久井保健福祉センターにて、車椅子ユーザーでドリームキャッチャー職員すえきさよの未清さんと交流しました。子どもたちから「ご飯、お風呂、外出はどうしているんですか?」など沢山の質問ができました。未清さんは「1人で仕事や行きたい所にも行く。難しいことだけ周囲に手伝ってもらっています。」と話す「僕たちと変わらないね」とつぶやく子もいました。

~未清さんからのメッセージ~

「**障害のある人=特別な存在**」ではなく、**障害のない人と同じように地域で普通に暮らしている**という事が伝わり嬉しく思います。

町で障害のある人が困っていたら、「何に困っているか」を聞いてから、手助けしてほしいです。

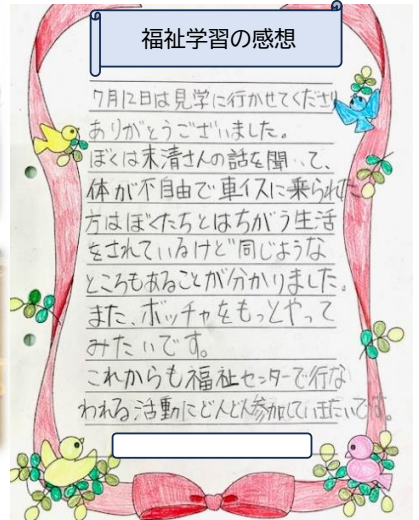
1学期の福祉学習を通じて、

- ・「**障害のある人=特別な存在**」でなく、自分たちと同じことが沢山あること
- ・**ハード(環境面)は変えにくいけど、ハート(一人ひとりの心)は変えられること**

が子どもたちに伝わったと思います。

今後「もっとポッチャもやってみたい!」という声があり、引き続き久井小学校のみなさんと一緒に考えていきたいです。

社会福祉協議会は子どもたちが福祉に触れ「思いやりの心」を育む場を、皆さんと一緒に取り組みます。



## 連絡先

三原市社会福祉協議会 各地域センター

### 三原地域センター

電話 (0848)63-0570  
FAX (0848)63-0599  
メール chiiki@m-shakyo.jp  
(社協 地域福祉課宛)

### 本郷地域センター

電話 (0848)86-3607  
FAX (0848)60-6064  
メール hongo-c@m-shakyo.jp  
(社協 本郷地域センター宛)

### 久井地域センター

電話 (0847)32-7101  
FAX (0847)32-5011  
メール kui-c@m-shakyo.jp  
(社協 久井地域センター宛)

### 大和地域センター

電話 (0847)34-1214  
FAX (0847)35-3020  
メール daiwa-c@m-shakyo.jp  
(社協 大和地域センター宛)

## 三原地域センター

### 新倉ハイツ町内会

### 「ワイワイクラブ」の活動をご紹介します！

待ち望んだサロン活動！  
これからもみんなで楽しむぞ♪

平成22年3月に活動をスタートし、毎月の食事会を中心に、年2回は、お花見や紅葉狩りなどのバス旅行を楽しむなど、住民の交流を行っていたワイワイクラブ。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年12月より活動を休止。休会が続く中で、支援者も高齢となり、いざサロンが再開出来る状況になっても、「ワイワイクラブを再開したいけど、自分もだんだんしんどくなって集まる元気がない」と感じていました。

この思いを度々聴き、「この地域に移り住んだ時にお世話になった先輩方の思いに答えたい！」との思いから、同世代の仲間と相談して支援者を交代し、サロン活動を再開することとなりました。



新しい支援者での再開にあたり、「これまで通りの事は出来ないが良いか」と先輩たちに確認したり、人が集まるか心配で、一軒一軒に案内して回ったりしたところ、楽しみにしていた人や、関心を持ってくれる人もいて、一安心。

令和6年5月、約3年半ぶりに開催したサロンには、17人も集まりました。みんなで一緒に食事を楽しみながら、あちらこちらで会話がはずみます♪

久しぶりに集まったことを喜びあっていました。



5月の活動では、男性ばかりの参加でしたが、6月から女性もたくさん参加してくれるようになりました。

また、活動終盤のカラオケでは、自然と手を取り合って合唱したり、輪になって踊ったりとみなさん嬉しそうに過ごしている姿が印象に残っています。

以前の支援者が楽しく参加してくれていることで、新しい支援者もいつでも相談できる環境となっており、安心して活動することが出来ているようです。「正直、初めは役をしたくないと思っていたが、みんなが楽しんでくれていて自分も嬉しくなった♪」とのこと。

30代から80代と幅広い年代が参加しており、日常では中々ゆっくり話すことは難しいですが、月に1回のサロン活動を通じて、交流し話をするきっかけづくりの場となっているようです。

サロン活動を通じて、住民同士の会話が弾み、日常も気かけあえる関係ができるよう、社協も活動を応援しています！

